

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和元年度第8回）議事概要

日 時：令和元年11月29日（金）10：00～11：30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、松本洋一郎理事、間野博行理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：児玉安司理事、北川雄光理事

I. 前回（令和元年度第7回）議事録の確認

- ・ 前回議事録について了承。
- ・ 前回議事録署名人を南理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

1. 倫理指針WGでの検討を受けての研究終了の定義に関するNCC運用新ルール案について資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ 研究者の方々にとってこの周期で定義づけをすればほぼ迷うことはないのか。
- ・ がんセンターの指針上、標準業務手順書の中に研究が終了した場合、終了報告を行うことについては定義されている。「終了」の定義についてそれぞれの解釈が異なっていたため、「終了」の解釈について運用面で通知する。委員会の中の規程だけでなく、研究者にも周知を行うが、現行の手順を変えるわけではなく解釈を明確にするということで整理を進めてきた。
- ・ 様々な事例が今後発生すると思うので、その度に充実させていきたい

2. 英グラクソ・スミスクライン社との提携について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ 包括契約を締結するに当たって、センターとしてどのようなメリットを感じたのか。
- ・ まずは包括契約という形で窓口を使って情報交換を行う。これにより企業がどのような考えを持っているか理解が進むのではないかと期待している。
- ・ 準拠法及び裁判管轄については、分けて考えなくてはいけないという認識でよいか。
- ・ 根拠法の部分についてそれぞれの国内法に準拠する形。
- ・ 国立の研究機関と企業が契約して、相手のコンパウンドを使用した場合についてはどのように考えているのか。
- ・ 企業のコンパウンドで臨床研究を行う際には要望特許という場合があるが、対価につながる

るかどうかは難しいところがある。日本で知財化して収益までつながっている事例は、医薬品の場合かなり限られている。

- ・現在、プロジェクトマネージャーをどのように養成、育成していくのか日本全体の問題になっているので是非よい例を作っていただきたい。

3. 病院長候補者選考委員の選定について

資料に沿って報告された。

Ⅲ. 報告事項

1. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

2. 広報実績等

資料に沿って報告された。

3. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

4. 9・10月分月次決算等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・昨年度の同月時点と比較して、費用が先に出ている状況や、人員増等で費用が昨年に比べて増加している点については今までの説明で理解しているが、最終的にどのように着地するのか、特に研究費関係がかなり難しいと考えている。
- ・予算段階でしっかりと管理していくことを考えているが、9月までの累積と予算の残額の2つの指標から確認している。年度末最後の月に収益化されるものもあり、12ヶ月できれいに均等割りにならないが最後は若干のプラスで終わることを期待している。